

『むかしばなしを よもう』 おかゆのおなべ

1年

—似ているところを探しながら読み、読書活動を広げる—

■ 設定の趣旨

昔話は、国や地域に根ざした伝統や文化を背景として生まれ、その土地の人々に長く語り継がれ、読み継がれてきたものである。口承文芸として、人の口から口へと音声を通して伝わってきた価値ある特徴をもつ。それは、国や地域が違っていても、同じような登場人物が出てきたり、同じように不思議な出来事が起こったりと、共通点が見られるお話もたくさんある。同じような言葉がくり返されたり、リズムや語の響きも楽しかったりと、それらに着目しながら読んだり、感想を交流したりすることで物語の読みが深まったり、主体的に本を選んで読もうとする意欲が高まったりするのではないかと考えた。

本単元の教材「おかゆのおなべ」はグリム童話の中にある。グリム童話は、グリム兄弟によってドイツの昔話を収録して創られたといわれている。1年時の子どもたちは、日本の昔話・民話として「おむすびころりん」や「たぬきの糸車」など、外国の昔話・民話では「おおきなかぶ」など学習の機会がある。また、これまでグリム童話では、白雪姫、シンデレラ、ヘンゼルとグレーテル、ブレーメンの音楽隊など生活の中で知っているお話として、どの子も触れる機会があったことだろう。

授業では、似ているところを探す手立てとして、登場人物や出来事、重要なアイテムなど、分かりやすい観点をいくつか示すことで、子どもたちはお話を構成する要素に着目しながら読むことができるだろう。また、その観点に沿ってグルーピングしながら感想を交流することで、共通点のみならず相違点についても気づくことができるのではないかと考えた。

さらに、「あのお話と似ているお話を探そう。」という意識が芽生えることで、本を選ぶ目的や読む観点がより明確になり、これからの読書への興味を高め、物語探索活動につながっていくことが期待できる。

■ 指導目標

○昔話・民話など、表紙や題名、知りたいことや読んでみたい内容から本を選んで読むことを通して身の回りにはいろいろな本があることを知るができる。 【知識及び技能】

○登場人物や出来事に着目して読み、お話の似ているところを見つけることができる。

【知識及び技能】

○自分もっている知識や実際の経験（読書体験を含む）と結び付けて、想像を広げたり理解を深めたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】

○文章を読んで感じたことや分かったことをカードに書き、読み合ったり質問し合ったりすることで、お互いの感じ方や考え方を認め合うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】

■ 指導計画（8時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点と評価規準・評価方法
第 1 次	1	<ul style="list-style-type: none"> 教科書 P42・43 の表紙や題名をみて、昔話に出てくる人物に着目させる。 「人だけでなくどうぶつなどもいっぱいできます。どんな人やどうぶつがでてくるかな？・・・そのおもしろさをさがそう」 「白雪姫」について知っていることや感想を発表する。 「白雪姫」について教師が書いた「おはなしカード」を見て、学習課題を知り、単元の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> P42・43 の中から「白雪姫」を取り上げ、児童の発表をもとに登場人物や感想についてまとめ、「おはなしカード」の記述につなげるようにする。 教師が「おはなしカード」を書く過程を示し、どのように書くのかを確認する。 <p>【態】学習の見通しをもち、いろいろな昔話を進んで読もうとしている。</p> <p>[振り返りカード]</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> 「おかゆのおなべ」を読み、挿絵なども手がかりに登場人物と内容の大体を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いて、登場人物や場面ごとの出来事（事件）などについて整理し、内容の大体が読み取れるようにする。 <p>【思】物語の登場人物や内容の大体を読み取っている。</p> <p>[ワークシート]</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> 中心となる人物は？どんな出来事が起こる？ どんな人物が出てくる？それは、敵？仲間？くり返しがおもしろい！呪文、魔法が使える。そんなお話をほかに知ってる？・・・ 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> 心に残ったところを「おはなしカード」に書き、友達と交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1時でまとめた児童の感想も参考にさせながら、心に残ったところを書く際の観点を示す。 「おはなしカード」を読み合う楽しさが実感できるようにするとともに、人によって感じ方や着目するところが違うことに気づけるようにする。 <p>【思】「おかゆのおなべ」を読み、感想をカードに書いている。</p> <p>[おはなしカード]</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> 「海の水はなぜからい」の読み聞かせを聞き、「おかゆのおなべ」と似ている点について話し合う。 「不思議な力をもつ物」が出てくる物語で、他に知っているお話を発表する。 似ているところを探す際の観点について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> なべと石臼を対比させ、物語の中に不思議な力をもっている物が出てくるという共通点があることに気づけるようにする。 児童から出てこなければ、「白雪姫」や「浦島太郎」などみんながよく知っているお話を例に挙げ、考えさせる。 児童が具体的にイメージしやすいように、物語をいくつか挙げながら、観点を示す。 <p>【態】似ているところを探しながら昔話を読むことを理解し、いろいろな本を読もうと</p>	

わたしの授業

			している。 [発言・振り返りカード]
第 3 次	6	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館での外国と日本の昔話の並び方を確認する。 ・読みたい本を選び、読んで思ったことを発表し合う。 ・次時に「おはなしカード」に書くことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室で授業をし、実際に並び方を示す。 ・ペアで発表し合うようにし、時間があれば相手の選んだ本も読むようにさせる。 <p>【態】友達と進んで感想を交流しようとしている。 [観察]</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・「おはなしカード」の書き方を確かめる。 ・選んだ本を再読し、登場人物や心に残ったところを「おはなしカード」に書く。 ・似ているところの観点に沿って、どのグループに入るか考えて自分のカードを掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に紹介するという目的を意識させる。 ・心に残ったところを書く際の観点を示す。 ・似ているところの観点を一つ一つ示しながら、自分が読んだ本はどのグループに入るか確認させる。 ・何人かの児童に「おはなしカード」を発表させ、掲示させてから全員に自分のカードを掲示させる。 <p>【思】自分が読んだ本について、考えたことや思ったことを書いている。 [おはなしカード]</p> <p>【思】お話の似ているところを見つけることができる。 [掲示]</p>
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の「おはなしカード」を読み、感じたことや考えたことを「感想カード」に書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで「感想カード」を発表し合い、交流する。 ・「感想カード」を交流して感じたことや考えたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が書いた「おはなしカード」について、教師が「感想カード」を書く過程を示し、どのように書くのか見通しをもたせる。 ・感想カードを交流する際、質問したいことがあれば質問して良いことを知らせ、教師が実際に何人かの児童に質問してみる。 ・3～4人のグループで「感想カード」を書いて交流させ、全員が感想カードを2～3枚もらえるようにする。 <p>【思】「おはなしカード」を読み合い、感じたことや考えたことを「感想カード」に書いている。 [感想カード]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の振り返りカードを用いて、自分がどんなことができるようになったのかを考えられるようにする。 ・休み時間や図書の時間を使って、「おはなしカード」「感想カード」の交流を継続し、読書活動が広がるようにする。

■ 指導のポイント

○お話の似ているところを探す手立て

本実践では以下のような観点（登場人物や物語の展開）を示し、分類させる。

特に、本単元では、登場人物に焦点を当てる。

★むかしばなしにでてくるひとつのおもしろいな！

- ・おひめさま（しゅじんこう）とわるいひと（なかま）がでてくる
- ・よいおじいさん（おばあさん）とわるいおじいさん（おばあさん）
- ・しょうじきなどぶつとわるがしこいどうぶつ
- ・ふつうのひととふしぎなちからをもつひと（もの）がでてくる

★ふしぎなせかいにでかけていくおはなしかな？ふしぎなせかいからやってくるおはなしかな？

- ・ふしぎなせかいにでかけていくおはなし
- ・ちがうせかいから、だれかがやってくるおはなし

※重複する物語も多いが、どの観点で分類するかは、児童がどこにより着目して読んでいるか、感想をもったかによるので、間違ってもさえないければ児童の判断に任せてよいと考えた。

内容の大体が捉えられればよい。いろいろなお話があることに気づくことが重点化したい指導事項となる。

※上記の観点に沿ってエリアを分け、「おはなしカード」を掲示させる。

○「おはなしカード」について

① 感想を書く際の観点

教科書P55の例では本を読んだ感想を書く際の観点を「好きなどころや、おもしろかったところ」としているが、本実践では「こころにのこったところ」とする。

第1時および第6時で、児童が本を読んで思ったことを自由に発表する中から、「おもしろい」だけではなく、「びっくりした」「かわいそう」「勇気がある」「頭がいい」「楽しそう」「よかった」など、具体的な言葉を集めて「こころにのこる」とはどういうことかを捉えられるようにする。

「こころにのこったところ」を書く観点として、集めた感想の言葉を掲示物にまとめていくようにし、児童が「おはなしカード」を書く際の手掛かりとさせる。

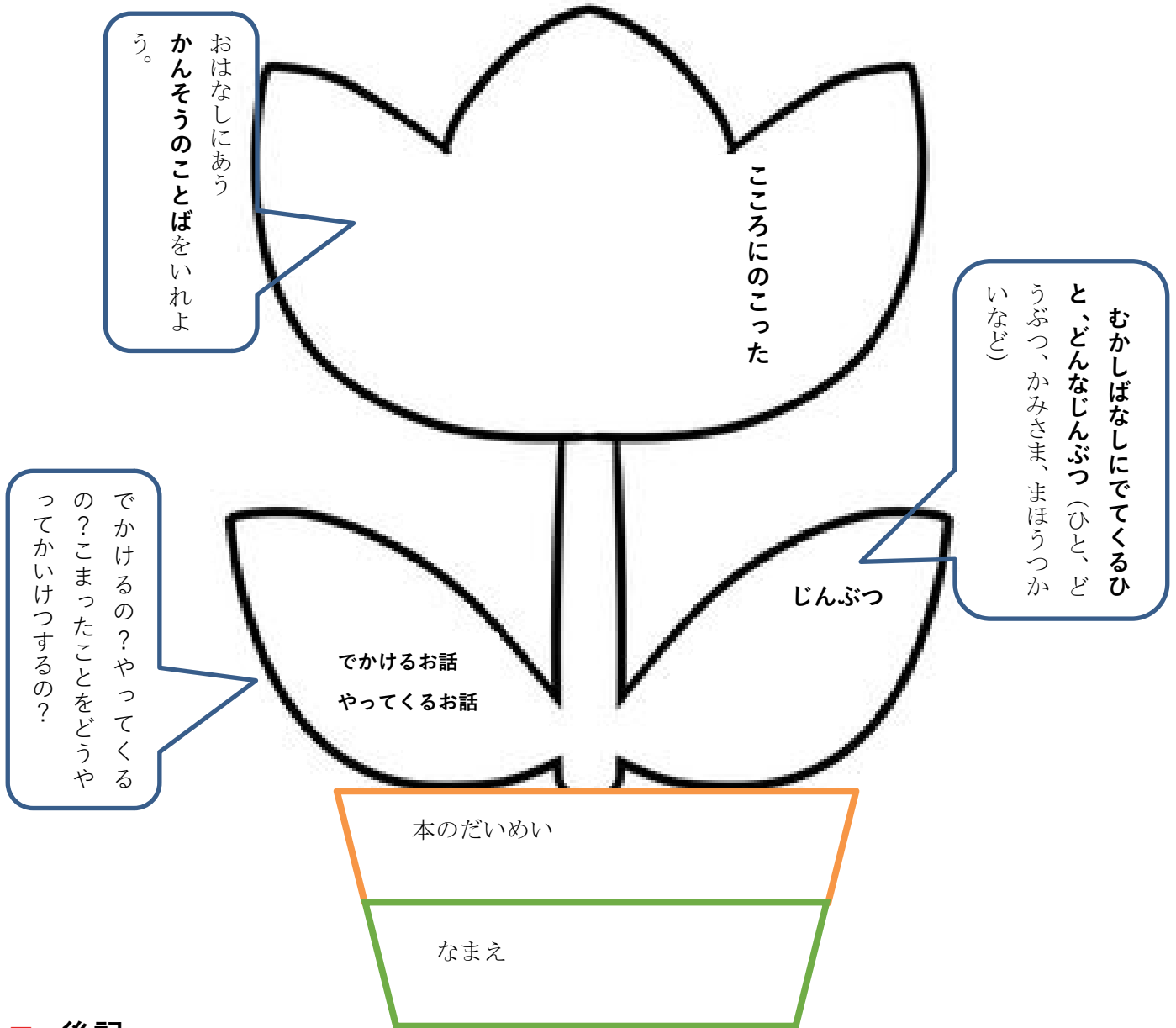
【注】「おもしろい」や「たのしい」を許容していると感想の語彙が増えない、「はじめに浮かんだ言葉は捨てなさい」（大村はま言）という言葉かけを日常的に心がけていきたい。

※使ったことがある言葉は？ない言葉から選ばせるようにする。使った言葉は、子どもが今後使えるようになる。	・すかつとする ・ぞくつとする ・すつきりする ・かわい ・こわい ・よかつた ・たのし ・あたまが ・ゆうきが ・かわい ・あつとい ・おどろ ・びっくり ・おもしろ ・わらえ ・おもしろ ・おもしろ ・びっくり ・おどろ ・あつとい ・かわい ・ゆうき ・あたま ・たのし ・よかつた ・こわい ・かわい ・すつきり ・ぞくつと ・すかつと	かんそうのことば	こころにのこったところ

わたしの授業

② 「おはなしカード」「感想カード」の形式

おきにいりのおはな



■ 後記

「おはなしカード」を読み合い、「感想カード」を書いて交流する場面の発展として、昔話にでてくる人「おひめさまとわるいまじょのお話」「いいどうぶつとわるいどうぶつのお話」「ふしぎなせかいにいてもどってくるお話」「ふしぎな力をもったひとがべつのせかいからやってくるお話」など観点によって分類した結果をもとに、同じ観点に入っている者どうしで交流したり、違う観点に入っている者どうしで交流したりすると、さらに「対話的で深い学び」につながっていくのではないかと。そして、本単元で身に付けたい「いろいろな本（お話）が身の回りにあるんだということを知る」という読書への興味にもつながっていくと考える。